

令和 4 年度 学校教育自己診断の結果と分析

生徒・保護者の回答においてほとんどの項目が上昇しており、学校への運営面や方針等に共感を得られてきている。

（１）生徒向けの診断

- ・生徒指導や教育相談に関する項目で肯定率の上昇が見られ、特に「担任以外にも相談できる」の項目で約 10%上昇した。教育相談を担う養護教諭の傾聴の現れであると思われる。

- ・生徒の満足度を上げるために「行事」と「進路」に力を注ぐことを今年度の課題としていたが、それらの関連項目も肯定率が上昇している。

（２）保護者向けの診断

- ・全体の回答率が約 50%であり、回答率上昇への取り組みが必要と感じる。

- ・学習の評価や生徒指導に関する項目では肯定率が上昇しており、一定の理解が得られたものと思われる。

- ・「保護者の相談に適切に応じてくれる」の項目では大きく肯定率が上昇したが、「家庭への連絡を積極的に行っている」では昨年より低下し、更に丁寧な家庭連絡を徹底したい。

（３）教職員向けの診断

- ・「学習指導計画について話し合っている」、「教材の精選・工夫」の項目で昨年度より大きく低下したのは、昨年度に活発に議論していたことによるものと思われる。

- ・「問題行動に対応する体制の整備」について肯定率が低下しているが、教員間の連携や迅速な対応ができなかったことに起因している。

- ・「活性化に向けた取り組み」についての肯定率が低く、一部の教員のみの動きではなく、全体で取り組むよう意識していく。